

会員数 59名 出席者48名・欠席者11名・免除会員5名
欠席者 有家・麻田・後藤・和泉享・岸上・中野昌・大山・大西信・高岡-会員

前々回出席率 75.4% (10/22)

MARUGAME ROTARY CLUB WEEKLY

会 長 岡田 将一郎
幹 事 陶国 栄帰
会報委員長 福田 洋子

お知らせ

11月のプログラム

- 5 (No.1)-会員卓話
- 12 (No.2)-報告
- 19 (No.3)-クラブフォーラム
- 26 (No.4)-客話

他RC例会変更

坂出東 11/25→11/28 職場訪問

ニコニコBOX;

- 祝誕生月
大西和君 福田君
- 祝結婚月
横田君
- よいことがありました
秋山憲夫君
- なんとなく
山内光君
- 先週のカレー大変美味しかったです
小山君
- 美味しいアイスありがとうございました
桑村君
- 投稿が「友」に掲載されて
横田君

<ニコニコ会計累積/¥152,000>

がんばるBOX;

- 早退します
眞鍋君
- なんとなく
竹内君
- 松山先生卓話ありがとうございました
岡田君
- 10/22米山奨学生を迎えて
林君

<がんばる会計累積/¥212,000>

■会長挨拶

皆さん、こんにちは。さて先々週は、コロナ禍の中で金相場はどうなっていくのかというお話をさせていただきましたが、現在大統領選挙の開票真っ只中です。その中で、大統領選挙が終わったあとの株価と景気の動向ですが、今後の動きが注目されます。現在、勝敗はついていませんがトランプ大統領再選、そして上院も共和党になれば、これまでの政策の継続となりますので、株価も景気もコロナを除けば順調に行きます。そのまま、上昇するでしょう。しかしながら、相当の景気策はもう打っているのだから以上のさらなる景気策は打ちにくいように思われます。その場合は、コロナワクチンが完成しない限りは来年の景気、株価は下落する可能性大です。またバイデンが勝利すると、庶民に対する経済対策を行うので、こちらも上昇する可能性大です。しかしながら、法人税の引き上げやキャピタルゲイン税の引き上げなどを公言していますので、来年あたりは、その影響を受けて株価は下がりそうです。もし、お互いが勝利宣言をして譲らない場合は、混沌とした状況となります。実際の市場はこの状況をすでに織り込んでいるので、乱高下は激しく動きますが、この状態は完全に停滞を意味しますので、非常にまずい状態です。また、トランプが勝って、上院議員の過半数を民主党が取った場合も、議会が民主党、大統領が共和党、トランプとなり、政策決定に停滞をもたらすので、この状態も良くありません。現在の状況としては、バイデンさんが大統領になり、上院の過半数は共和党が取る可能性が大です。バイデンさんに、GAFAはトランプさんに比べて5倍以上の献金をしているので、ハイテク、IT関係は、そのまま順調に推移するみたいです。全てのシナリオで、来年の景気、株価は大変難しい局面を迎えそうであり、今年中の景気刺激策や高株価を利用して、来年の乱高下と下落に備えるのが良いそうです。これが、アメリカの株価エコノミストのご意見で、多分このアオリを日本も受けるので、株価については今年中がピークで、来年に備えるようにしたほうが良いかもしれません。

■委員会報告

①夏見ローター情報委員長
より、ローターの友の紹介、横田会員の記事掲載の紹介

■理事会報告

- ①12/17の夜間例会は食事付、アルコールなしで行う
- ②丸亀東RCとの合同新年例会について、現時点で開催予定。
参加者はフェイスシールドを着用し、1時間半程度に短縮する。
- ③ガバナー輩出について、当クラブから4年後に輩出する方向で準備をしていく。

■例会事業;会員卓話;松山毅彦会員

「新型コロナウイルス感染症あれこれ+α」
三つの密「密閉空間」「密集場所」「密接場面」を避けること。
感染防止策として手洗いをしっかりとすること。
検査方法については、①抗原検査②抗体検査③PCR検査があり、それぞれ特徴がありますが、現時点では判定結果が遅くなりますがPCR検査が良い。ただ、判定結果が出るまでの管理をどうしたら良いかが、個々が気を付ける点であり、医療機関に相談してほしい。



(裏へ続く)

2020.10.29

Vol.58

No17

(2811)

「新型コロナ感染症時代の生殖医療について」

一般社団法人日本生殖医学会は、COVID-19感染の急速な拡大の危険性がなくなるまで、あるいは妊娠時に使用できるCOVID-19予防薬や治療薬が開発されるまでを目安として、不妊治療の延期を選択肢として患者さんに提示していただくよう推奨している。一方厚労省は、妊娠後期に新型コロナウイルスに感染したとしても、経過や重症度は妊娠していない方と変わらないとされ、胎児の異常や死産、流産を起こしやすいという報告はなく、妊娠中でも過度な心配は不要との見解が同時になされている状況です。生殖医療に携わっているものとしては、「不妊・不育治療は不要不急ではない！年齢のリミットがある」ことを強く訴えています。

国家的危機ととらえるべき少子化であり、一人の女性が一生に生む子どもの平均数を示すと、2019年の合計特殊出生率は、1.36と4年連続で低下し、12年ぶりの低水準です出生数は予想より2年早く90万人を割り込み、86万ショックという言葉が使われています。厚労省の発表によれば自治体が受理した妊娠届けの減少幅は大きく、5～7月の累計では11.4%と大幅な減少でした。

外出自粛で里帰りが難しくなるなど出産を取り巻く環境が大きく変わり、安心して出産できないという考え、子供を持つことを先送りに動きがでたとみられています。より深刻なのは少子化の背景にある若い世代の経済的不安です。また、子供の発達や収入減などへの強い懸念が子供のストレスをも増加させています。子育て世代の一部の人にしわ寄せがいかないように、社会や企業は対応策を考えるべきです。

この危機を乗り越えるためには、多様性を認める社会に変貌を遂げなければなりません。多様性を認める社会でないことが、わが国の出生率の低さに表れています。女性のReproductive Rightsが認められるような社会を目指さなければなりません。

推薦本「伝えることから始めよう」(高田明)